

田植塚〈たうえつか〉（吉川町吉安・湯谷）

安場〈やすば〉（今の吉安〈きちやす〉の一部）の村に、むかし、ひどいおしゅうとめさんがあって、今年のはじめて野良仕事に出る花嫁〈はなよめ〉に、
「大町〈おおまち〉（大きな田）を朝じかに植えてこい。」

と、いいつけました。

もともと、三反（約三十アール）ちかくもある田ですので、いくら精出しても植え終わるはずありません。むかしの田植は、田のあぜにそって回りながら植えつける方法でした。もう、よっぽど植えられたものと嫁さんが頭をあげて見ると、まだ一周も植えていません。陽は西の山の端に近くなっています。気が遠くなってその場にたおれてしまいました。村人たちは、そのたおれたところに塚を作り『嫁泣〈よめなか〉し田』といって、この田の持ち主には、よくないことが続くとおそれられました。



同じような塚が湯谷にもあります。湯谷のなかほどの一反半（約十五アール）ばかりの田のそばに塚があり、この塚には田植を苦にして死んだ新妻〈にいづま〉の墓です。この墓にさわると、不幸がおこると、だれも取り除く人がありません。